

琵琶湖定点定期観測

岡村 貴司・前河 孝志・森田 尚・山本充孝・菅原和宏・佐野聡哉

◆背景・目的

琵琶湖の漁場環境の動向を把握するため、1915年(大正4年)から定点定期観測を継続して実施している。

◆成果の内容・特徴

- ・琵琶湖北湖5定点において、毎月1回、透明度、水温、pH、プランクトン沈殿量、DO、CODおよび栄養塩等の分析を行った(資料編参照)。
- ・表層(5定点の平均)の湖水温は、8月から翌年1月にかけて平年値を0.8~2.0℃上回っていたが、2月は気温の低下や降雪の影響を受けて平年値を0.1℃下回った(図1)。
- ・80m層(St.IV)は4月から平年値を0.7~1.0℃上回っていたが、2月および3月は差が小さくなり0.2℃となった。
- ・透明度(5定点の平均)は、台風の影響を受けた7月を除き、平年値を0.8~3.7m上回った(図2)。年度の平均値は7mを超え、5定点の平均で7mを超えるのは1940年以来である。
- ・80m層(St.IV)における溶存酸素量の年間最低値は4.5mg/lとなった。

◆成果の活用・留意点

- ・琵琶湖の漁場環境の長期変動を把握するため、今後も継続して定点定期観測を行っていく必要がある。

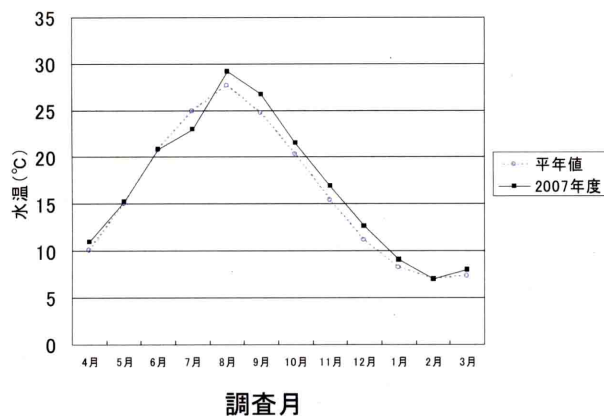


図1. 表層(5定点の平均値)の湖水温の経月変化

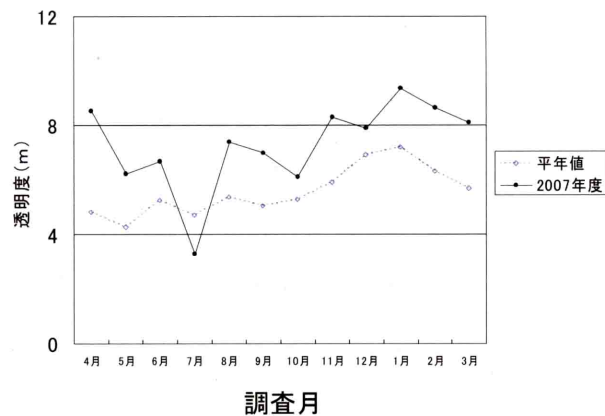


図2. 透明度(5定点の平均値)の経月変化